

飯伊地区 産業経済動向

No.562 2026/1
(8.2.25 発行)

 **飯田信用金庫**
IIDA SHINKIN BANK
しんきん南信州地域研究所

<https://www.iidashinkin.co.jp/>
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132



Contents

表紙 写真：信州大学グリーン水素実証実験のパネル設置が行われるエス・バード	
(飯田市座光寺・2月18日撮影) ..	P 1
製造業 景況DIは前月から悪化。機械製造で景況感好転も、食品・その他で景況感悪化の声	P 2
建設業 1月の公共工事は前年比やや減少。昨年12月の住宅着工は前年比41%減少	P 4
商業・サービス業 景況DIは前月から大幅に悪化。宿泊業を中心に景況感悪化の声が多い	P 5
しんきんリニア・三遠南信対策室です 三遠南信地域 路線バスの旅 Season 2 (2)	
飯田駅から豊橋駅へ (2)	P 6
環境特集 南信州実証タウンにおける信州大学のグリーン水素技術の普及拡大に向けて	
～信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 准教授 宮原大地氏～ ..	P 10
2025年の飯伊地区統計から	P 14
飯伊地区全産業景況DIの推移・主要経済指標	P 15
新入社員研修会(令和8年4月17日(金))のお知らせ	P 16

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ(<https://www.iidashinkin.co.jp/>)に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならず、全国で行っています。



再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIは前月から悪化。機械製造で景況感好転も、食品・その他で景況感悪化の声

当月の製造業の業況判断指数（DI）は0.0で、前月から15.6ポイント低下。翌月予測はプラス24.1で、前月から12.3ポイント上昇。当月は、電機・精密・光学機器製造や半導体製造で景況感好転の声が多かったが、食品製造やその他分野で景況感悪化の声が複数あり、全体での指数は前月から悪化した。先行きは、食品製造では悪化見込みの声がやや多いが、機械製造では好転見込みの声が多く聞かれ、こちらは4か月続けてプラス圏となった。電機・精密・光学製造や半導体製造に関しては前向きなコメントも聞かれるようになった。引き続き、今後の動向を注視したい。

主な業種の動き

●電機・精密・光学

- ☑受注、販売… 販売の前月比は業者により増減分かれる。先行きについては販売、受注とも横ばい～やや増加で、減少を見込む声はない。
- ☑景況感…… 当月は横ばい～好転で、悪化との声はない。先行きはも同様で、好転見込みの声が多い。

〔企業からのコメント〕

- ・需要に回復傾向がみられるようになってきた。中国向けにも動きが出てきている。
- ・半導体市場において明るい話題が少しずつ出てくるようになった。

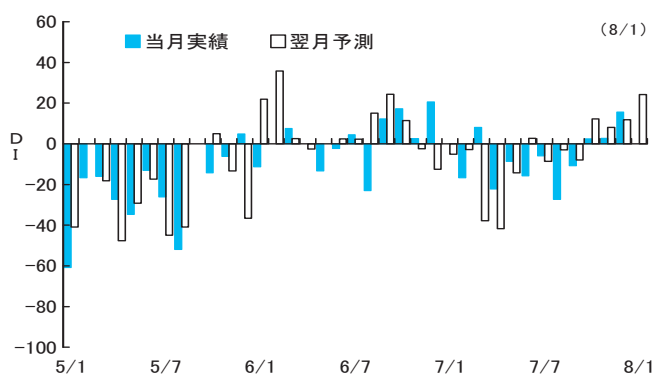
●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- ☑受注、販売… 前月比は販売は横ばい～増加、受注は業者により増減分かれる。販売の先行きは業者により増減分かれるが、増加見込みの声がやや多い。
- ☑景況感…… 当月の景況感は横ばい～やや好転。先行きは業者により見方が分かれる。

〔企業からのコメント〕

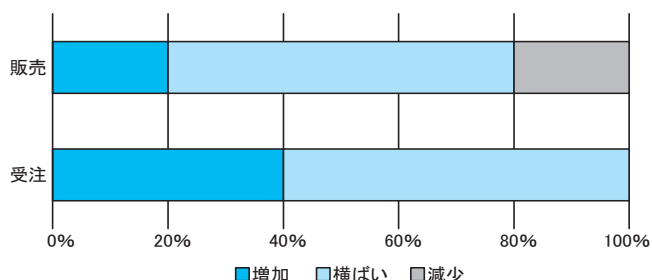
- ・「AI需要に下支えされ、製造装置の需要が一気に盛り上がってきた。継続性は不明ながらも、現段階で9月頃までは同水準の見込みとなっている。2月は生産量が上がり微減傾向だが、3～9月は1月と同水準となる予定」「1月はメイン取引先からのまとまった注文により前月比、前年比とも売上増加。1月と比べると次月以降はやや悪化する見込み。スポット的な短納期需要で、先行き不透明感は継続すると思われる」
- ・「2026年度の日本製半導体製造装置の販売額は、AIデータセンター向けの先端ロジックやHBM（広帯域メモリ）投資の拡大を背景に、過去最高を更新する見込み。世界的な需要も強く、2027年度には6兆円規模への成長も予想されている。成長する主な分野は、生成AI、データセンター、車載、パワー半導体、エッジAI端末（スマートフォン、PCのNPU）とされている」「設備投資の需要回復に関しては2027年以降との見解に変わりないが、AI分野以外の需要もようやく回復傾向にあると思われる。年単位で回復が遅れていたが、ようやく現実味のある明るい話題が聞こえるようになった」
- ・急激な需要増加に伴い、生産体制の構築に必死となっている。様々な施策や活動が急務となっている。

飯伊地区景況DI（製造業）

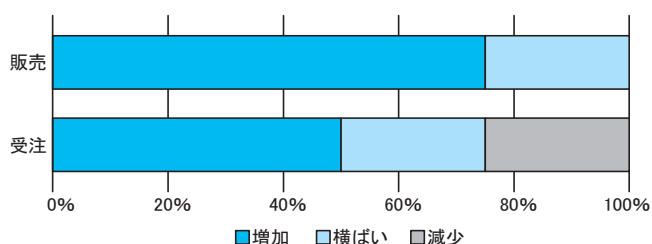


【DI（ディフュージョン・インデックス）】とは…
景気に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。
「先月と比べて景気が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景気が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電機・精密・光学向け部品前月比回答割合



半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合

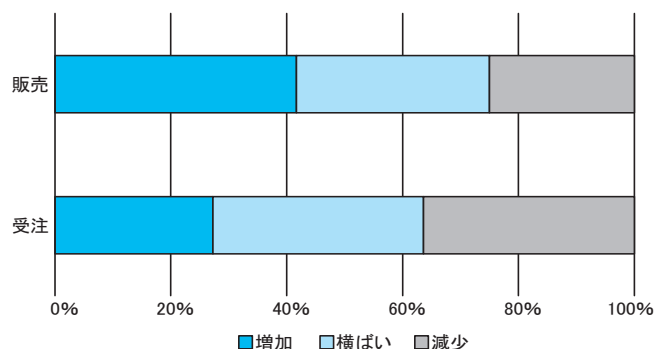


●産業機器、医療機器向け等機械部品

☑受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれるが、販売は増加の声がやや多い。販売の先行きについては業者により増減分かれるが、増加見込みの声の方が多い。

☑景 況 感…… 当月は業者により見方が分かれ、好転の声と悪化の声が拮抗。先行きは横ばい見込みと好転見込みの声が多い。

産業機器、医療機器向け部品前月比回答割合



[企業からのコメント]

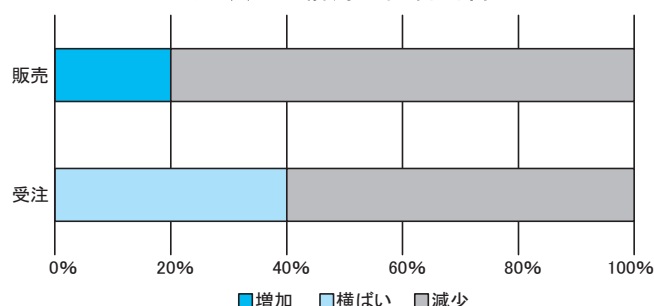
- ・「前月が値上げによる駆け込み需要のため、今月は受注減少」「増産の話が流れてこない」「相変わらず製造業は厳しい状況だが、取り扱いの物によっては良くなってきているという話も聞く」「製造業は一般的に静かな状態が続いており、新たな期待として衆議院の選挙結果がプラス方向になるように強く期待する」
- ・「金や銀に関係する素材が値上がり」「材料高騰」

●食品製造（漬物、半生菓子、菓子原料、その他食品）

☑売 上…… 菓子の前月比はやや減少、先行きはやや増加を見込む。食品全体では減少の声が多く聞かれ、先行きは増加見込みと減少見込みの声が拮抗している。

☑景 況 感… 当月は悪化～横ばいで、横ばいとの声が多い。先行きは業者により見方が分かれるが、悪化見込みの声がやや多い。

食品製造 前月比回答割合



[企業からのコメント]

- ・「米価の高値が漬物の売上減少に影響を与えている。また12月の消費疲れが見られ、年明けは節約志向が見られる」「12月と比べると1月は月初だけ好調で、全体的には下がる。ただ前年に比べると動きは良い」「小売店向けの売上は不調。外食関係も来客数が減少している模様」
- ・「原材料価格の上昇を価格転嫁しているが、影響がどう出るかは今後の動向次第」

●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

☑売 上… 前月比はやや減少、先行きは増加を見込む。景況感は当月はやや悪化、先行きはやや好転を見込むという。

[企業からのコメント]

- ・1月初旬は例年と同様の売上だったが、中旬以降は大雪や寒波で伸びず、在庫過多で困惑。
- ・水引業界の発展のため、儀式用品を販売し、人と人をつなぐ儀式の発展と必要性を広め、産業として貢献できるようにすることを期待する。

●上記以外の製造業

☑建築用金属製品… 販売は前月比横ばい、前年比は減少。先行きも減少を見込むという。景況感は当月、先行きともやや悪化という。

☑自動車向け部品… 販売は前月比、先行きともに横ばい。景況感は、当月、先行きともに横ばいという。

☑印 刷…………… 販売は前月比減少、前年比はやや減少。原材料単価は上昇、先行きも上昇を見込むという。

[企業からのコメント]

- ・関東の建築物件の着工件数がかなり減少していて、当社の仕事量も少ない状態が続いている。
- ・昨年に比べて仕事量が多く、工務は残業も増えて多忙であったが思うように売上が伸びなかった。次月に売上が繰り越されたので、2月の結果に期待したいところ。
- ・資材の継続的な値上げが続いており、印刷販売価格も値上げに全力を注いでいかなければいけない状況。顧客の理解を得ながら対応していきたい。印刷業界は昔は年末が多忙であったが、時代が大きく変わり年度末が忙しい時期となってきた。

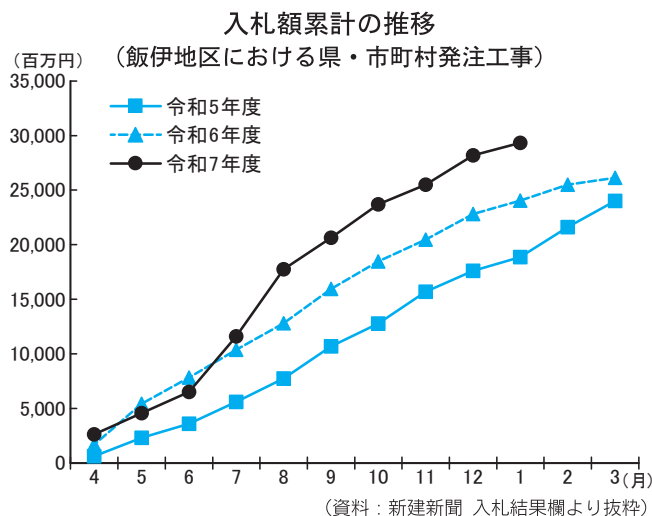
建設業

官公需 概況 1月の公共工事入札金額は前年比で8.5%減少、一昨年比では7.9%減少

☑公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、11.5億円（2月15日調査時点）。前年に比べ8.5%減少、2年前との比較では7.9%減少。

☑景況感…………… 当月は横ばい～やや好転で、横ばいとの声が多いが悪化との声はなかった。先行きも横ばい見込みの声が多いが、次いでやや悪化を見込むとの声が多かった。

☑原材料価格…………… 当月は一部にやや上昇との声もあるが、全体では横ばいとの声が多い。先行きは横ばい見込みと上昇見込みの声が半々で、下降見込みの声はない。



〔企業からのコメント〕

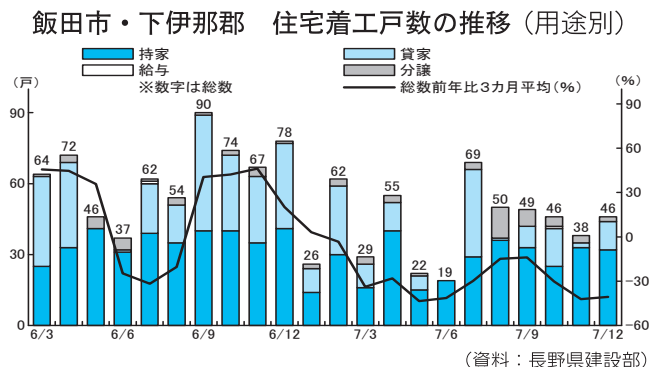
- ・「公共工事の補正予算の早期発注に期待しているが、まだ動きはない」「1月の工事高は前年比でやや減少。2月は日数が少なく天候も良くないため、工事高はやや減少を見込む」「年始休暇により1月の工事高はやや減少も、前年比ではやや増加となった」「地元の公共工事は減少しているが、受注残高は大きく変わらない。下請工事や民間工事によるところが大きい」「衆議院選挙の結果次第というところ」
- ・資材業者も含めて休日が多くなった分、屋外作業の効率が低下している。
- ・「業務量はあるが、技術者が不足している。求人活動は継続して実施」「現状は技術者が不足している。技術者のほか、営業等も通年で募集」「施工社員の不足が続く。中途採用に力を入れる」「現状、人員はギリギリで回っている状況。募集はかけているが、人は集まらない」
- ・「設備は不足しているが、現状維持」「古い車両の入替を実施」「ソフトウェアの導入・更新を実施」

民需 概況 令和7年12月の住宅着工戸数は46戸で前年比41%減少。
貸家が大幅に減少し、5か月連続で前年比マイナス

☑住宅着工戸数… 当地区の12月の住宅着工戸数は46戸。前月比21%増、前年比では41%減。持家の戸数は32件で前年（41件）から減少。貸家は12件で前年（36件）の3分の1に減少。分譲は2件で、前年（1件）から増加。

☑景況感…………… 当月、先行きともに業者により見方が分かれるが、全体では横ばいとの声が多い。

☑原材料価格…………… 当月は横ばい～やや上昇。先行きはやや上昇～上昇で、下降との声はない。



〔企業からのコメント〕

- ・職人不足が続いており、リフォーム現場でも工期が伸びてしまう。

建設資材等 概況 1月の生コンの売上は前月比、前年比ともに業者により増減分かれる。
骨材は前月比、前年比ともに減少

☑生コン … 売上は前月比、前年比ともに減少～やや減少。

☑骨 材 … 売上は前月比では減少～やや減少、前年比は業者により増減分かれる

〔企業からのコメント〕

- ・1月の主な出荷はリニア関連工事、三遠南信工事、発電関連工事、床固工事、バイパス工事等に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は当月出荷量の約5割。
- ・「12月より出荷量は落ちたが、安定して出荷があった。1月で工事終了の現場が多々あり、来月以降が不安。公共事業工事が少ない」「大鹿ではリニア南アルプストンネルと県道松川インター大鹿線落合トンネルへの生コン出荷が順調。この先も継続して需要が見込まれる。他にリニア工事で活発だったのは喬木のリニア橋梁」

商業・サービス業

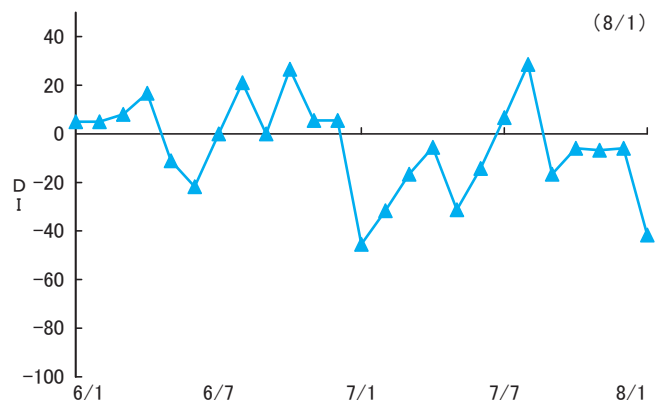
概況 景況DIは前月から大幅に悪化。宿泊業を中心に、景況感悪化の声が多い

当月の商業・サービス業の業況判断指数（DI）はマイナス41.7で、前月から35.8ポイント低下。

当月は飲食業の一部で景況感好転の声が聞かれたものの、宿泊業の多くで、また小売業、卸売業の一部で景況感が悪化したとの声が聞かれ、全体の指数は前月から大幅に悪化した。宿泊業では昼神温泉を中心に利用客が少ないとの声が聞かれ、天候の影響なのか消費動向の変化の影響等によるものかを測りかねているとのコメントが聞かれた。

次月以降では、どの業種でも景況感好転を見込む声はなく、宿泊業を中心に、小売業、卸売業でも景況感悪化を見込む声が聞かれた。例年、1月を境に景況感は改善傾向を示すことが多いが、悪化傾向が強まるのか、今後の状況を注視したい。

商業・サービスDI



(8/1)

主な業種の動き

●小売業 概況 売上の前月比は減少～やや減少。景況感はやや悪化～横ばい

✓売上 … 前月比は減少～やや減少。前年比は業者により増減分かれる。

✓景況感 … 当月はやや悪化～横ばい。先行きも同様。

[企業からのコメント]

- ・「2月の節分に向けて、各業者とも対応に入っている。年々、節分行事は縮小気味ではあるが、恵方巻の売れ行きについては興味がある」「前年同時期と比べ売上減少。消費を控えている印象」

●卸売業 概況 売上の前月比は減少～横ばい。景況感は、当月、先行きともにやや悪化～横ばい

✓売上 … 前月比で食品は横ばい。建設資材はやや減少、青果、電設資材は減少。

[企業からのコメント]

- ・野菜は、昨年の異常な高値は収まり、キャベツ、白菜は大幅安となるなど全体では安値となったが、北海道の夏場の高温の影響で馬鈴薯、玉ねぎは値上がりするなど品目によって価格差が大きく、入荷は前年並みも売上は減少。果実は、年明け後も富士（りんご）の出荷が多かった。主力の苺は12月の品薄から回復傾向にあり、昨年並みの売上。みかんは、入荷は昨年並みも価格は安い。レモンがドライフルーツ需要で売上を大きく伸ばし、果実全体では昨年並みの売上となった。
- ・年末年始の需要反動や、寒波・大雪の影響による煽りを受けた印象。特に住宅向け案件の売上が減少した。銅ベースを筆頭とした仕入価格の高止まりが続いており、利益面の圧迫および利益確保が課題。LED照明・キュービクル等の省エネ投資、データセンター・DX関連の電気設備工事は活発。その他、物流コスト・人件費・金利上昇への警戒感が強く、民間設備投資の意思決定が遅れている。年度末に向けた工事の追い込み需要の回復に期待。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 売上の前月比は、飲食業はやや減少～横ばい、宿泊業は減少～横ばい。

景況感は、飲食業は業者により見方が分かれ、宿泊業は悪化～やや悪化

✓売上 … 飲食業は前月比やや減少～横ばい、宿泊業は前月比減少～横ばい。運輸業は前月比減少、前年比ではやや増加。

[企業からのコメント]

- ・「昨年度の売上と比べると、上昇している。2月の予約や動きも昨年度と比べると良い傾向」「売上は前月比減少も、前年比では大幅に増加。予約が早く入ったおかげで、仕入や準備ができることが一番大事。ただ、景気全般は良いとは言えない」
- ・「年が明けて、お客様の動きが一段と悪い。節約志向なのか、人口減少によるものか」「1月は館内の設備補修のために休館した影響で売上減少。全般的に個人客の入込が少ない傾向で推移した。単発的な団体や学生のスキー客は入っているが低迷している。雪不足も懸念事項」「毎年のことだが3月末頃までの期間は動きが少なく、厳しい期間となる。この時期に合わせての集客イベントなど、インバウンド向けに企画があればと思うが、なかなか難しい」「この冬は寒い日が続く、客足も悪くなっている。この傾向を一日も早く脱却したい。4月は現時点で、前年に近い集客ができていく状況」
- ・コロナ前との売上対比は8割5分強、タクシー運行回数は7割強。12月の繁忙期の反動と天候が良好であったことで売上が伸び悩んだ。代行についても全体の機動力がないために大きく減少。今後は、アプリによる共同配車等について、企業間で協力していく必要がある。

三遠南信地域交流たずねある記（15）

三遠南信地域 路線バス乗り継ぎの旅 Season 2（2） 飯田駅から豊橋駅へ（2）

～ 南信州地域との交流の跡を巡る ～

バスは長野県を出て三河の地に。稲武を目指し、その後設楽町へと向かう。

■ 県境を路線バスで越える

4時間待った12時49分発の稲武行き稲武地域バス（根羽線・どんぐりバス）が旧根羽村役場前駐車場に入ってきた。乗車は例によって私一人となる。国道153号を愛知県方面へ矢作川に沿って進むと月瀬停留所。左手川の向こうに国の天然記念物（昭和19年指定）月瀬の大杉を見ることができる。この辺りは江戸時代から明治の初めまで月瀬村となっていた（角川地名辞典・長野県）。またこの近く（万場瀬）から杣路峠を越えて稲武方面へ向かう中馬古道があった（右下図参照）。

間もなく愛知県との県境を示す表示が現れ、愛知県に入ったことが分かる。県境を路線バスで越えられるのは三遠南信バス旅で初めてのこととなる。なぜこのようなバスが運行されているのか。前号（No.561）の根羽村公共交通担当者によると「以前は飯田から名古屋まで国道153号を路線バス（名飯急行）が走っており、中央道開通により廃止されたが、根羽ー稲武方面のバス運行は続き、その後豊田市コミュニティバスに移行したもの」とのこと。

信南交通 HP（<https://www.shinnan.co.jp/cp/history/html>）を見ると、名飯急行バスは中央高速バス（飯田ー名古屋線）の供用前に飯田と名古屋を5時間ほどで結んでいたという。国道153号改良前のあのくねくね道を5時間で運行するのは結構な速さだと思われる。手元の国鉄（JR）時刻表1970（昭和45）年版を見ると、例えば朝一番の急行伊那1号は飯田6時13分発で名古屋10時23分着の4時間10分。これを踏まえると名飯急行バスは153号沿いの地域にとって価値ある交通手段だったのではないか。子供の頃「あれは名古屋行きのバス」と言われ見た記憶がある。確か白地に赤を基調とした車体色ではなかったか。

別のサイトによると、名飯急行バスは信南交通と名鉄バス他との共同運行で、1日3往復していたという。稲武地域バスは稲武から長野県境方面へ1日最大8往復運航しているが根羽までの乗り入れは3往復のみ（他は右図上郷まで）で、この名飯急行バスの運行形態を受け継いでいることによる。

先の担当者は「豊田市との運営になるが、いったん止めたら2度と復活できないとの思いで協議体に参加している」とのことだった。

■ 稲武は三遠南信地域か？

間もなく国道は矢作川を渡りトンネルへ入るのであるが、バスはそのまま旧道（豊田市道上郷線）を進み上郷の集落を抜けて再び153号に合流する。



稲武市街と道の駅どんぐりの里

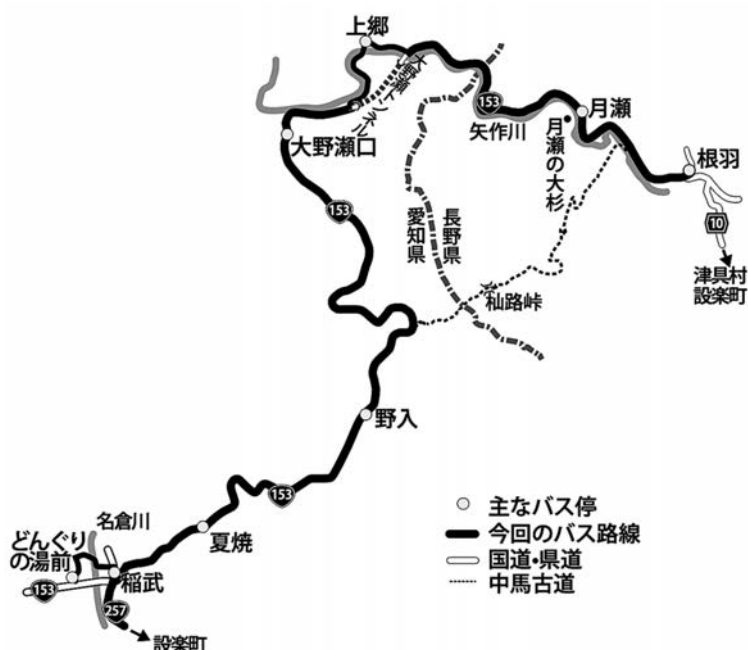


バスから望む月瀬の大杉



長野・愛知県境

根羽ー稲武路線バス関連図



今回目指す**稲武**(旧稲武町)は現在豊田市の一部(平成17(2005)年合併)で、豊田市はSENA(三遠南信地域連携ビジョン会議)に属していない、いわば西三河であるが、旧稲武町は、元は北設楽郡に属しれっきとした東三河の地であった。因みに稲武は稲橋村と武節村の合併(昭和15年)により両者の一文字ずつ取っての命名という。三遠南信地域バス旅で寄る先として良いのではないかな。

■国道153号を進み中馬街道に触れる

153号を旧稲武町の地区(旧村)を辿り、**大野瀬**(停留所名は**大野瀬口**)、**野入**、**夏焼**と進んでいく。夏焼という地名は「焼畑(農業)にちなむものか」(角川地名辞典・愛知県)ということだが、旧浪合村にも字名があったと思うし、時々見かける地名と思う。

そうこうしている内に稲武市街が見えてきた。国道153号と257号との「稲武町」信号交差点を右折すると市街地になる。市街地最初の**稲武**では、この路線バスを運行している**豊栄交通**の社屋前になるのだが、正面に**どんぐりバス**利用者数が表示されていた。

その先を左折して進むと町の中心を流れる川(名倉川)を渡るが、この川を境に右岸側が旧稲橋村、左岸側が旧武節村になるという。いかにも元街道の宿場という雰囲気の家並が続く。江戸時代には「武節宿が置かれ。慶応2年には馬30匹」(角川同)の規模。武節宿には東海方面からの塩を信州に送った塩問屋の繁栄が伝えられており、武節宿が語られるとき「中馬街道」に併せ「塩の道」が必ず謳われている。

■バス交通の要どんぐりの湯と歴史名所

終点の**道の駅どんぐりの里いなぶ**(停留所名は**どんぐりの湯前**)は豊田市が管理する道の駅(平成10(1998)年登録)で、道の駅施設としての駐車場(普通車106台、大型車12台、身障者用3台)、トイレ、休憩・案内施設に加え、温泉施設「どんぐりの湯」、地域産品を中心とした物産販売「どんぐり横丁」など道の駅としては相当に規模の大きい施設で、平日の今日も賑わっていた。さらに施設の北側で拡張工事中であった。

この道の駅は、同時にこの地域の公共交通のハブとして機能しており、国道153号の南方へとよたおいでんバス稲武・足助線で足助へ向かうほか名鉄三河線**豊田市駅**からの「快速バス」もあるという。東方面に設楽町へはおでかけ北設稲武線で田口へ、それに今乗ってきた**稲武地域バス根羽線**が、施設北側駐車場のバス停留所に発着している。

またこの道の駅は、史跡の武節城の麓に位置しており、稲武の街を153号バイパスで通過する際のトンネル山体が城の縄張りを構成している。この地は信濃・美濃の抑えとしての重要拠点とされていて城が設けられた。戦国時代は織田、武田、徳川によりこの城を巡る攻防が繰り広げられたという。道の駅から10分ほどで本丸のあった最高地点に達することができる。ここにある説明看板には、天正3(1575)年の長篠(設楽原)合戦に敗れた武田勝頼がこの城にたどり着いて一泊し、甲州からの迎えの軍が待つ根羽へと向かった、とある。

今回国道153号を根羽から稲武にかけて通ってみて、沿道のあちこちに「中馬街道」「塩の道」の看板が見られることを改めて知った。国道153号の前身の飯田街道の往時の繁栄を偲ぶ地域の思いが表われている。



根羽村万場瀬



豊田市大野瀬



豊田市夏焼



豊田市夏焼



稲武バス停



旧武節宿の家並



稲武地域バス(どんぐりバス)
根羽～どんぐりの湯前 200円



道の駅から望む武節城址

■稲武から田口に向けて進む

どんぐりの湯前13時55分発おでかけ北設稲武線田口行きに乗車。ここでも乗客は私一人。おでかけ北設は、設楽町営のコミュニティバスで、Season 1でも述べたが設楽町、東栄町、豊根村が共通のネーミングで運行し、それぞれの町村内主要施設を結ぶほか相互に乗り入れて北設地域の交通の便宜を図っている。

先ほど来た道を引き返す形で道の駅どんぐりの湯前から武節地区を抜け、国道の153号の「稲武町」交差点へ出て国道153号を横断して東へ向かい、前述の名倉川に沿って国道257号で標高を上げていく。この辺りが中当町で、江戸時代から明治まで中当村。その後前述の旧稲橋村になりその後旧稲武町となったところ。名倉川沿いに開けたところがある程度見られる。

しばらく行くと平らなところが大きく広がるようになり、設楽町の名倉に入ったことが分かる。名倉には、前回設楽町田口の方から国道257号で入ったのであるが、峠からの山道を下りて行くと突然開けた地形が広がり、ちょうど阿南町新野（千石平）や津具の地に入った雰囲気を感じた。田圃が広がり豊かな土地との印象を持った。

ここは地区名としては名倉だが、大字名としては納庫の字が使われている（西納庫・東納庫）。最初どう読めばと戸惑った。

この名倉は南信州地域に、というか先ほど通ってきた根羽の地に関わりがある。「根羽村誌」によると、古くは三河の国加茂郡賀禰郷、その後賀茂郡名倉郷に根羽・月瀬2カ村も属したとある。矢作川より南が三河の国という感覚だったようだ。荘園制が広がると両村は皇室所領の足助庄となったという。

その根羽が後に信州に属することになっていくのは、「根羽村誌」の記述は難解であるが、南北朝の頃からの足助氏（その下の三州足助鈴木氏）の支配下から、信濃の関氏（同誌は疑わしいとする）や下条氏といった信濃の勢力圏下へと移り、武田氏の信州進出とともに徐々に組み込まれていったようだ。根羽村誌は月瀬村の杣路峠（6頁図参照）の狼煙台について触れており、根羽・月瀬が武田支配地における重要拠点であったことを示唆している。現代の狼煙リレーイベントでもスタートは杣路峠からだ。

両村の信濃国編入は元亀2（1571）年の三河進攻で、足助城を攻略して鈴木氏を追放後に武田氏に下った下条氏が入ることとなり、「信玄の指示により（両村は）信濃の国に編入され、下条支配となったのである」（根羽村誌）。

■名倉で新たな乗客

名倉地区中心部の名倉小学校前、下林などを過ぎて、大平で一人のご婦人が乗車した。運転手と賑やかに会話する。そのうちこちらに向けて「どこから来た？」という話になって、飯田からバスを乗り継いで旅をしていると言うと、「平谷村の生まれでここに嫁いできた」という驚きの展開。育った平谷のこと、子供たちは独立して一人で暮らしていることなどいろいろ語ってくれた。「名倉には食料品を買うところがなく、必要品は稲武か田口にバスで買いに行かなければならない」という。どちらの方面へも20～30分の時間距離とはいえ大変なことだ。地域交通としてのコミュニティバスの必要性がよく分かったと同時に、このような乗車状況・利用状況の中で公共交通をどう維持していくか、考えさせられることであった。

その先は設楽町の中心田口に向かって峠越えの道路に変わっていく。ここまでの間の両側の田圃は圃場整備が進められ整然となっているのだがよくよく見ると皆獣害除けの防護柵（電柵）が張り巡らされている。山林が近いとはいえ当飯伊地域でもこれ程嚴重な柵は余程の山間地でないとない。平坦な部分が広く羨ましい程の整備状況なのに意外であった。



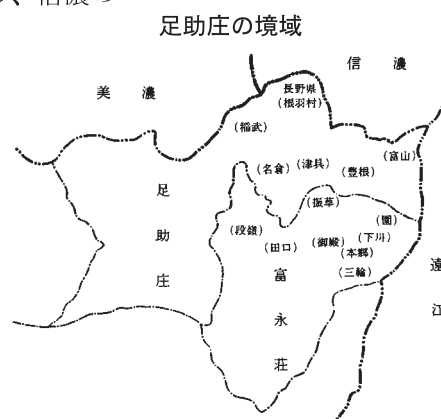
おでかけ北設 稲武線
どんぐりの湯前～田口 500円



名倉川（豊田市中当町付近）



名倉地区



（「根羽村誌」315頁）



電柵張り巡らされた田

■ダム工事で活況を呈す設楽町中心部

名倉の先、山間地を通過して緩い峠越えをする形で設楽町中心部田口方面へ進むと工事車両が増えてくる。設楽ダム（令和16（2034）年完成予定＝国交省中部地方整備局設楽ダム工事事務所HP）関連の工事だ。設楽ダム湛水に伴うこの辺りの国道・県道の水没に対応する付替道路工事となる。

Season 1 で訪れたのは令和4年。約3年半経過していることになる。当時は橋脚が立ち上がったくらいだったが、橋桁が架かり、付替工事はかなり進んだ感がある。

ダム本体は路線バスが走っているところからは見えないが、同事務所（同HP）によると、現在本体第1期工事ということで、ダムサイト設置地点の地山整備などを進めているようだ。

通過している国道257号が合流する県道10号（設楽根羽線）こそ三州街道（伊那街道）で、中馬の道でもあり、終点の田口は中馬の田口宿として賑わったところとなる。

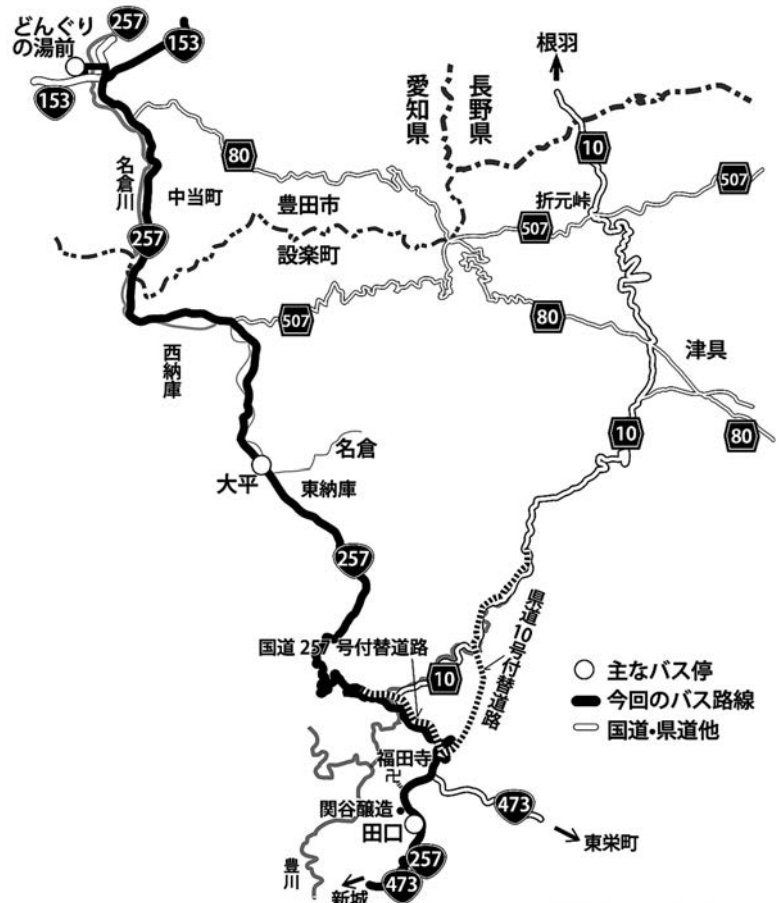
田口の街中へ入ると設楽町役場や中部地方整備局、同ダム工事関連施設や商店も目に付く。Season 1 にも記したが、この地域では武田信玄公は田口で卒したという伝承があり（設楽町誌）、信玄公のものと伝わる墓がある福田寺はこのバス通りから少し入ったところだと今回知った。

バスはコミュニティプラザしたらに併設されている田口バス停に到着。先のご婦人とお別れをして、次の新城行きバスを待つことになる。



進捗が見られる設楽ダム関連工事

稲武ー設楽町田口路線バス関連図



■旧街道の町並みに溶け込んで事業展開する酒造会社

バス旅記ではこれまで、交通事業者以外の特定企業（バス停名となっていたものを除く）や飲食店の紹介を控えているが、一つだけ紹介させていただきたい。

昨年11月飯田市で開催された「第18回三遠南信しんきんサミット」での特別企画として、三遠南信地域の各信用金庫が持ち寄ったコメでつくった清酒「大吟醸三遠南信」が会場で披露され好評を博した。その醸造を担った「蓬萊泉」ブランドなどで名を馳せる関谷醸造(株)は設楽町田口に本社を置いている。

その前の第17回サミットを東三河地区信用金庫が担当した折、次回サミットに向けたオリジナル日本酒の開発と醸造用米の持ち込みが提案され、1年がかりの仕込みとなることから、東三河地区の同社が担当することとなった。



設楽町田口の街並みと酒造会社

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平）

南信州実証タウンにおける 信州大学のグリーン水素技術の普及拡大に向けて ～ 信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 准教授 宮原 大地 氏 ～

2026年、飯田市座光寺のエス・バードにて、信州大学による「グリーン水素」生成の実証実験がスタートする。

それに先立ち、「南信州実証タウンにおける信州大学のグリーン水素技術の普及拡大に向けて」と題した勉強会を、信州大学の宮原大地准教授を講師に迎えて開催した。



宮原 大地(みやはら だいち)氏

長野県伊那市出身。長野県上伊那農業高等学校を卒業後、信州大学農学部にて博士（農学）を取得。研究テーマはニワトリの繁殖メカニズム解明や、卵アレルギーを持たない鶏卵の開発等。

2016年、大学における産学官連携や研究力強化事業のプロデューサーである「ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター（URA）」として信州大学に着任。

2023年3月より信州大学松本キャンパスに異動し、現在は南信州地域におけるグリーン水素・水循環技術等の社会実装に向けた研究拠点形成事業の推進を担当している。

本稿では、「信州大学がグリーン水素を研究する意義」「南信州地域で水素をつくる意味」「信州大学が進める水素開発の現状」「南信州地域での地産地消型水素の利活用に向けて」など、講演いただいた内容を抜粋してご紹介する。

当地域で注目が集まる「水素」の可能性について、地域の事業者のみなさまの参考となれば幸いである。

(2026年1月15日、飯田信用金庫本店2階にて開催)

CO₂は数千年～数万年大気に残り続ける

信州大学がグリーン水素を研究していく意義についてですが、これは申し上げるまでもなく、地球温暖化が非常に大きな問題となっていることに関係があります。

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第六次報告書では、特に産業革命以後の人類活動による温室効果ガス排出量の増加が、近年の地球温暖化の主因であると結論付けています。温室効果ガスの代表選手として知られるのは、なんといっても二酸化炭素（CO₂）です。しかし、地球の大気成分に占める CO₂ の割合はかなり少なく、0.03%程度とされています。さらに、温室効果への寄与という点では、水蒸気（雲を含む）の寄与率が全体の6割超あり、CO₂の寄与率は21%程度とされています。

では、大気中にわずかししか含まれず、温室効果への寄与度も相対的に低いCO₂は、どうして温室効果が

スの代表のように扱われるのでしょうか。それは大気への残留時間が圧倒的に長いからです。水蒸気はすぐに雨となって地上に降り注ぎ、大気中での残留時間は概ね9日間程度です。そのため、水蒸気の温室効果そのものは非常に高いものの、地球温暖化を進行させる主要因とはなっていません。

一方で、CO₂は数千年から数万年にわたって大気の中に残り、長期間の温室効果をもたらします。そうして地球の気温が上がってくると水が追加的に蒸発するため、温暖化の最も大きな要因である水蒸気がさらに増え、温室効果が増大します。CO₂の温室効果の本質はここにあり、「温暖化の強制因子」と呼ばれます。

したがって、地球温暖化を防ぐ主な対策は、CO₂をいかに減らしていくかが重要である、というのが世界的なコンセンサスです。

電気だけでは代替の難しい分野には、
水素の活用が現実的

CO₂の排出を減らしていくために、日本では2040年までにグリーンエネルギー（再生可能エネルギー）を全電源の40～50%にすることを目標にしています。ただ現状のグリーンエネルギーの普及率は20.3%であり、あと約15年でこれを倍にしないといけないので、相当努力をしないと届かない状況です。エネルギーの代替手段として太陽光や風力発電、水力発電のようにCO₂を排出しないグリーン電力によって賄うことが必要になりますが、一方で電気では代替の難しい分野があります。

重量輸送や化学原料、あるいは航空機のような非常に大きなエネルギーが必要なものについては、電力を作る・蓄える技術が発達したとしても、代替が難しい分野とされています。これらの分野を「難脱炭素分野」といいます。

なぜこのような分野があるのかといえば、電気は熱を作るのが非常に苦手だからです。EV（電気自動車）に乗っている方はお感じになると思いますが、冬になるとバッテリーが急激に減っていくと思います。それはヒーターに電気を使っているからです。特に熱を代替するものについては電気以外の方法を考えなければならず、その筆頭候補として水素が注目されています。

指標	水素	化石燃料 (例：ガソリン)	備考
発熱量 (質量基準)	◎ 約120 MJ/kg	○ 約44 MJ/kg	高いポテンシャル
発熱量 (体積基準)	× 約8 MJ/L (液体H ₂)	◎ 約32 MJ/L	水素の貯蔵・供給には圧縮等が必要
燃焼CO ₂ 排出	◎ 0 g-CO ₂ /MJ	× 約74 g-CO ₂ /MJ	利用時ゼロ排出
供給コスト (2025年時点)	× 高 (約30～50円/Nm ³)	◎ 安 (約10円/Nm ³ 相当)	政策的支援が前提
エネルギー変換効率	△ 20～35% (製造～利用)	◎ 70～90%	水分解水素の場合
脱炭素ポテンシャル	◎ (グリーン水素)	×	低コストな製造方法が鍵

水素は化石燃料の代わりになれるのか？（講演資料より）

水素が化石燃料の代わりになるのかを検討してみると、水素の質量基準での発熱量は、化石燃料に負けない高いポテンシャルを持っています。ただ、やはり供給コストやエネルギーの変換効率では化石燃料の方がまだまだ優位性があります。水素はCO₂を排出しませんし、脱炭素のポテンシャルは非常に高いわけです。

が、水素の製造・供給方法を改善する必要があります。

水素で内陸部のエネルギーの自給自足を

日本は、化石燃料を海外からの輸入にほぼ頼っています。すなわち、エネルギー面での安全保障率が極めて低い国であるといえます。

エネルギー安全保障を考えたとき、国産のエネルギーを持っておかないと、世界情勢が変わるたびに経済的にも強い打撃を受けることになります。日本がそんな国になってしまっては、これから先、生き残っていくのは難しくなります。特に、エネルギーの輸送面で不利となる内陸部での課題は深刻です。内陸部でエネルギーを自給自足することの価値は、沿岸部からの輸送に依存しているエネルギー面でのハイリスクを緩和できる点にあると思っています。

水素エネルギーは、水を分解するだけで得られるエネルギーです。太陽光発電や水力発電の電力を用いることで、現時点でも内陸部での自給自足が可能です。作った水素はボンベなどに貯めておけば、モビリティの燃料や電気として活用することができます。

石油の完全な代わりにはならないかもしれませんが、石油に次ぐポテンシャルを持ったエネルギーとして水素エネルギーの利活用を進めることは、地域経済の頑健性を高めることや、我が国のエネルギー安全保障の観点からも非常に重要だと考えています。

課題はグリーン水素の低コスト化

では水素の製造コストはどの程度なのでしょう。水素には製造方法によっていくつか種類があり、それぞれに名称があります。

現在製造されている水素の中で最も多いのは「グレー水素」です。これは、天然ガスを燃焼させ、水蒸気を改質することで製造されます。グレー水素は世界的に最も普及している水素製造方法であり、低コストで水素を作れますが、化石燃料を使用するため、大量のCO₂を排出します。水素自体は環境にやさしいエネルギーでも、製造過程でCO₂を排出するのでは本末転倒です。

再生可能エネルギー等で水を電気分解して作る水素は「グリーン水素」と呼ばれます。その製造コストは再生可能エネルギー自体が現状では高いので、グレー水素に比べて約10倍とされています。

すなわち、グリーン水素の製造コストをいかに下げられるかが、これからの重要な取り組みとなります。

信大のグリーン水素は太陽光で水を分解して水素をつくる

信州大学のグリーン水素は、太陽光エネルギーに光触媒を使って水を分解します。このプロセスに電気は必要ありません。太陽光と水があれば、水の中に光触媒粉末を入れるだけで水素と酸素が発生してくる。そんなシステムを信州大学では社会実装しようとしています。

信州大学のグリーン水素は、グレー水素や従来のグリーン水素とは異なり、化石燃料も電気も使いません。すなわち、環境負荷・製造コストともに低減できる画期的な技術です。

グレー水素 (従来法)	水電解式 グリーン水素	光触媒式 グリーン水素
【原料】 天然ガス、石炭 etc.	【原料】 水、グリーン電力	【原料】 水、太陽光、光触媒
【製造法】 化石燃料を燃焼させ、 水蒸気を改質して製造	【製造法】 グリーン電力によって 水を電気分解 して製造	【製造法】 太陽光のエネルギーで 電気を使わず 水を分解
【環境負荷】 極めて高い	【環境負荷】 低い (製造過程でCO ₂ 排出ゼロ)	【環境負荷】 低い (製造過程でCO ₂ 排出ゼロ)
【製造コスト】 現段階では最も低コスト ※燃料価格に依存	【製造コスト】 極めて高い ※グリーン電力の調達価格による	【製造コスト】 低い (大面積化も容易) ※研究が予定どおり進展した場合

グリーン水素の従来の製造方法との違い (講演資料より)

さらに、光触媒を用いる水素製造法は、パネル状に展開したリアクターを敷き詰めることで、製造設備の大面積化が容易なことも、もう一つの大きな特徴です。これは水素の大量製造においては非常に重要な意味を持ちます。

一連の研究は、世界的にも高い評価をいただいています。開発者である堂免一成・信州大学特別栄誉教授は、2024年にノーベル賞の登竜門とされるクラリベイト引用栄誉賞を受賞されるなど、毎年様々な表彰を受けています。しかし、そうした栄誉に気を緩めることなく、私たちは実用化に向けて次のステップに進んで

いきたいと思っています。

大きな課題は光触媒の効率化、長寿命化

現行型の光触媒による水素変換効率は1%程度で、計画では2035年までに変換効率10%、すなわち現在の10倍の水素を発生させることを目標としています。

変換効率が5%になれば、現在と同価格程度で水素を供給できる計算ですが、10%くらいまでにならないと一般的に使えるようなコストになり得ません。ですので、2035年までに10%の高変換効率を実現した光触媒を作ることを目指していきます。

もう一つ、光触媒の寿命も非常に大きな課題です。現状では2年程度までは正常に稼動することが確認できていますが、それ以上はまだ誰も踏み込んでいない領域です。よって、長く使えて、さらに耐久性も高い触媒を作るための実証実験も必要になります。

また、実証実験を行う場所が冬の寒さが厳しい飯田であるというのは、自然のリスクに対して強いパネルを作っていくという点で、重要なテストフィールドであると認識しています。凍結リスクがあり、かつ日照時間が長い飯田で実証実験を行って成功すれば、世界各地でグリーン水素が製造できるようになります。この実証実験はグリーン水素を「飯田モデル」として世界中に広げていくための大事な一歩ですから、「高効率化」「長寿命化」という開発要素をこれから5~10年かけて、しっかりブラッシュアップしていくことが私たち信州大学に求められる役割になると考えています。

来年3月にパネル設置完了、本格稼働へ

本年1月6日にエス・バードのアスファルト舗装工事が完了したと聞いたので、先日私も見に行ってきました。きれいに舗装していただきまして、ここにグリーン水素を発生させるパネルがどんどん設置されていく、そんなイメージを描いております。

今後の主なスケジュールですが、最初に大面積展開用に改良した大型パネルの試作を行います。これにより設計思想が確定するので、春頃には大型パネル数基分の試験運転に入りたいと考えています。

試験運転が終了する夏頃から、改良型の大面積パネルを設置し、水素酸素分離ユニットの設置を経て、2027年の3月末までに工事を完了したいと考えています。



エス・バードの工事の状況 (2026. 1. 8 撮影、講演資料より)

地域と協力して、最新の技術のあるまちをつくる

2025年12月に策定された「飯田市水素利活用ビジョン」では、南信州地域が水素のポテンシャルが高い地域であると説明されています。これは決して誇張ではなく、製造業や運送業が盛んであればあるほど、水素エネルギーの代替可能性も高まります。また南信州地域は車社会ですから、モビリティにおける水素の代替可能性というのは非常に高いと思います。

水素は燃料の代替だけではなく、様々な活用ポテンシャルがあります。そのままエネルギーとして使う方法以外にも、水素製造の副産物として得られる酸素を養殖に活用するという方法もあります。さらに、水素をアンモニアに変えて、そこから肥料を作ることができれば、国産肥料の原料にできるのではないかと、個人的に注目しています。また、南信州と言えば航空機産業ですので、水素ドローンや航空機の燃料として水素が活用できれば、とも考えております。

このように、私が簡単に整理していただけてもたくさんのアイデアがありますので、地域の皆さんからも様々なアイデアが出てくると思います。「飯田市水素利活用ビジョン」にも、「水素焼肉」というアイデアが載っていました。

今後は、南信州地域の皆さんに水素を供給していく



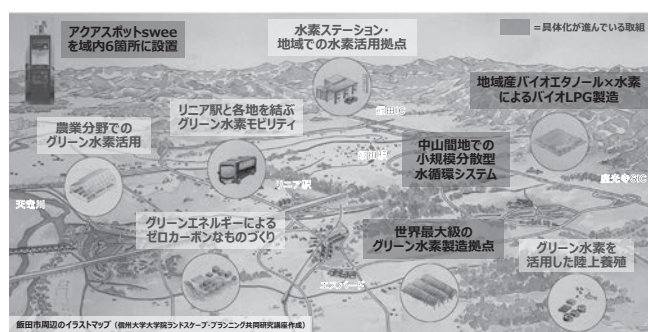
南信州地域における水素の利活用事例 (講演資料より)

仕組みを考えていくが必要になると考えています。水素を作った後、実際に溜めて運んで使うというプロセスを進めるには、地域の皆さんのご協力が不可欠です。報道などによれば、燃料電池車の導入や水素ステーションの設置なども計画されているとのことなので、地域の皆さんと歩調を合わせ、私たちも一緒に水素社会の実現に向けて取り組んでいきたいと思っています。

実際に2027年の3月以降には水素が発生してくる想定なので、2026年度は地域の水素インフラをどのように整えていくのかを議論する1年にできるとよいと思っています。

グリーン水素のテクノロジーだけではなく、信州大学では多くの研究者が、この南信州の地域の協力を得て活動を展開しています。喬木村では、中山間地での小規模型の分散型水循環システムの実証実験で協力をいただいています。

このように、信州大学の様々な実証実験を動かしながら、地域の皆さんとともに、最新の技術が当たり前存在する、そんな地域を一緒に目指していけたら、と考えております。



信州大学が取り組む飯田・南信州実証タウンの構築 (講演資料より)

(文責：しんきん南信州地域研究所)

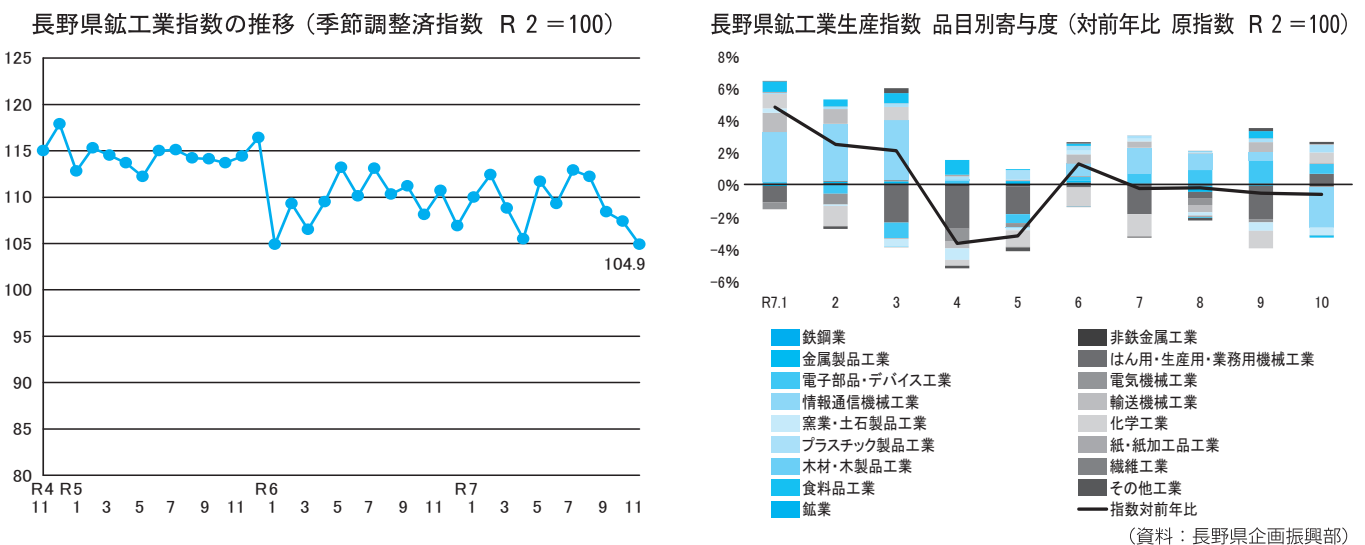
2025年の飯伊地区統計から ～長野県鉱工業指数と飯伊地区の雇用関連統計～

長野県鉱工業生産指数

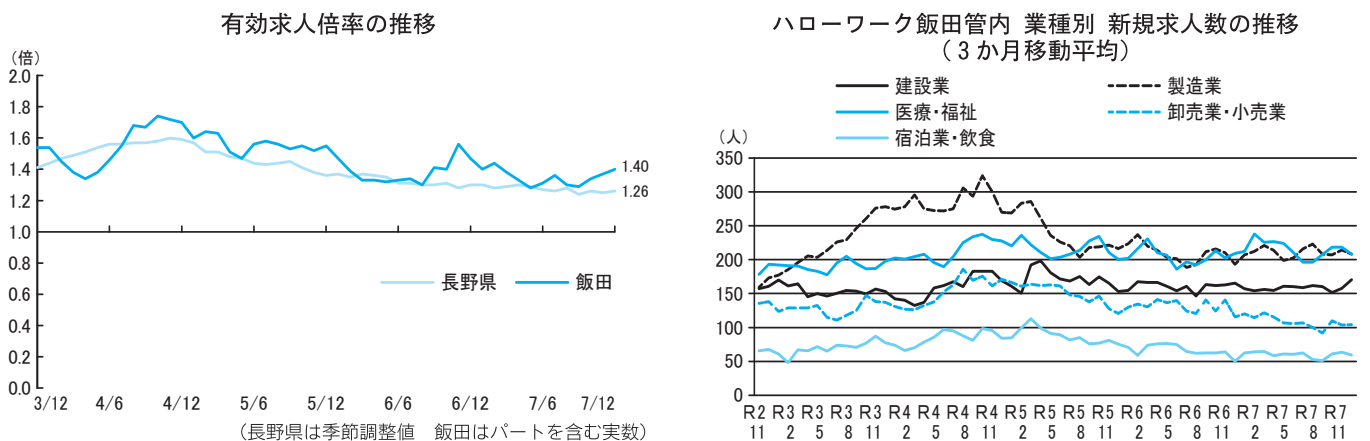
令和7年11月までの長野県鉱工業生産指数（季節調整済指数 $R2=100$ ）の推移をみると、令和7年は、年初から令和2年の水準を上回り、令和6年とほぼ同様の水準で推移した。

原指数の前年比を見ると、年前半は前年を上回る水準で推移したが、4、5月に前年に比べ落ち込みが見られ、その後は前年並み推移していた。

品目別に見ると、年前半、情報通信機械器具の生産が前年に比べ順調だった様子がうかがえる。この時期輸送機械も前年に比べ順調だったが、これには、前年に、一部完成車メーカーの認証不正問題を要因とした落ち込みがあったためとの指摘もある。年央以降、電子・デバイスなどで前年を上回っていた。



有効求人倍率の推移と、ハローワーク飯田管内の新規求人数



ハローワーク飯田管内の有効求人倍率の推移をみると、昨年中も依然として1倍を上回って推移していた。

この傾向は長野県、グラフにないが全国でも同様だが、当地域の場合、長野県よりもやや高めに推移しているように思われる。人手不足を指摘する声は多いが、当地域は、そうした傾向がより強く表れていると思われる。

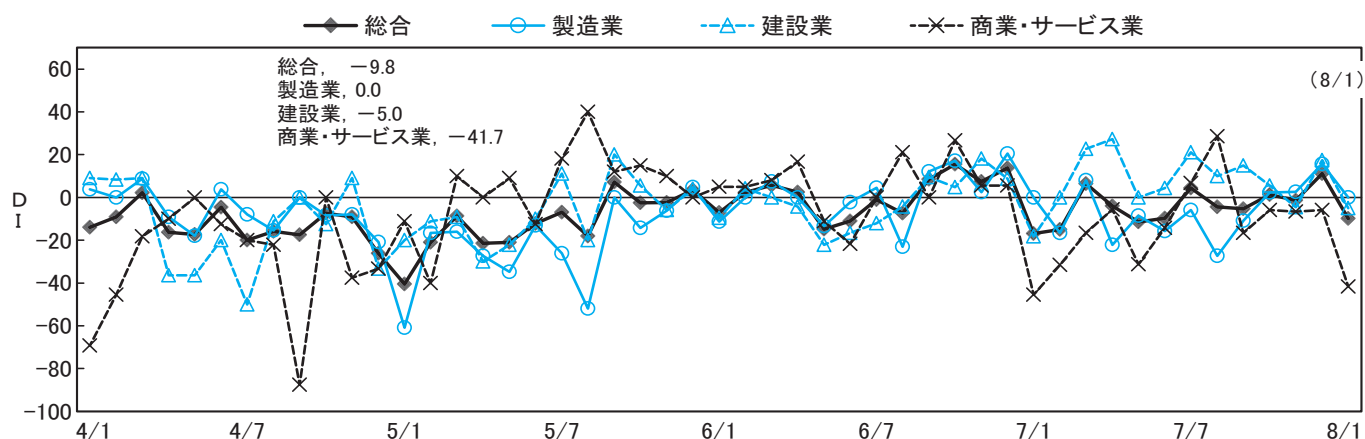
景気の先行指標とされる新規求人数だが、飯伊地区で比較的新規求人数が多い5業種の新規求人数の推移を見ると、昨年中は概ね安定して推移したように思われる。当面の事業環境に大きな変化が見込まれていなかった様子がうかがえる。

（資料：ハローワーク飯田）

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 中村 達）

飯伊地区全産業景況 D I の推移

飯伊地区景況 D I (本誌調査)



飯伊地区主要経済指標

主 要 指 標		実 数	前 月 比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒 産 件 数 (負債総額1千万円以上)	県 内	11 件	(前月 10 件)	(前年同月 11 件)	(前々年同月 8 件)	(令和元年同月 11 件)
	飯 伊	2 件	(前月 0 件)	(前年同月 0 件)	(前々年同月 0 件)	(令和元年同月 1 件)
住 宅 着 工 戸 数 (飯田市、下伊那郡 総数) (12月)		46 戸	21.1 %	△ 41.0 %	△ 19.3 %	△ 30.3 %
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (12月)		1.40 倍	(前月 1.37 倍)	(前年同月 1.47 倍)	(前々年同月 1.55 倍)	(令和元年同月 1.49 倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新 車	1,887 台	4.5 %	△ 4.2 %	7.5 %	△ 0.1 %
	中古車	564 台	△ 30.0 %	2.0 %	0.0 %	23.4 %
軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会)	新 車	3,643 台	8.9 %	7.8 %	29.4 %	△ 14.8 %
	中古車	910 台	△ 4.6 %	4.1 %	11.7 %	29.1 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	89,989 台	△ 6.1 %	1.8 %	3.1 %	△ 14.2 %
	出	88,709 台	△ 9.0 %	1.4 %	1.8 %	△ 15.3 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	48,878 台	△ 12.2 %	0.8 %	△ 1.7 %	△ 29.5 %
	出	46,865 台	△ 15.1 %	4.8 %	2.9 %	△ 26.6 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	10,922 台	6.2 %	△ 5.5 %	0.3 %	△ 11.9 %
	出	10,900 台	3.3 %	△ 4.7 %	4.2 %	△ 13.9 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	38,740 台	△ 8.9 %	△ 4.4 %	3.6 %	13.3 %
	出	36,948 台	△ 12.4 %	△ 4.7 %	1.7 %	12.7 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	41,874 台	△ 5.0 %	5.2 %	16.4 %	— %
	出	42,136 台	△ 8.2 %	5.5 %	22.0 %	— %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		127 件	△ 19.1 %	5.0 %	△ 3.8 %	0.8 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		0 件	(前月 5 件)	(前年同月 6 件)	(前々年同月 5 件)	(令和元年同月 8 件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	23,079 人	△ 7.3 %	△ 2.3 %	7.7 %	△ 13.7 %
	飯田～名古屋	14,065 人	△ 2.1 %	1.8 %	4.6 %	△ 21.2 %
	飯田～長野	4,056 人	0.8 %	22.0 %	16.6 %	△ 51.9 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	17,268 人	△ 7.7 %	△ 3.4 %	3.4 %	△ 18.0 %
市内循環バス乗車人数	左回り	2,760 人	△ 16.7 %	2.6 %	13.1 %	△ 8.4 %
	右回り	2,952 人	△ 6.4 %	11.2 %	19.7 %	2.7 %



飯田信用金庫
IIDA SHINKIN BANK

飯田信用金庫・IBC（飯田しんきんビジネスクラブ） 主催

新入社員研修会のお知らせ

恒例の新入社員研修会を開催します

専門講師が、身だしなみ、敬語の使い方、電話応対、来客対応など、新入社員の皆さまに必要なスキルを分かりやすく講義します。社会への好スタートを切り、一日でも早く活躍できますよう、ご活用ください。

日 時：令和8年4月17日（金）
10：00～17：00

講 師：山本 富士美 氏
オフィス・F 代表／一般社団法人 日本講師協会会員

会 場：シルクホテル

費 用：IBC会員 5,000円（税込）
しんきんAssist倶楽部会員 6,000円（税込）
一般企業（上記以外） 7,000円（税込）

※いずれもお一人様あたりの金額となります。昼食のご用意いたします。
研修会開催後、申込企業さまへ請求書を送付いたしますので、ご確認
頂きお振込みください。

定 員：先着70名

申込期限：令和8年4月10日（金）

申込方法：下記コード、または飯田信用金庫ホームページから申込フォームにアクセスし、必要事項をご入力してお申し込みください。折り返し「受付完了しました」のメールが届きましたらお申込み完了となります。

専用申込フォーム



または



飯田しんきんのイベント情報

検索

お問い合わせ

飯田信用金庫 営業統括部

TEL 0265-22-1700 FAX 0265-22-4320

Mail:toka-biz@iidashinkin.ne.jp